

本資料は 2020 年 10 月 29 日にチューリッヒで発表されたメディアリリースの翻訳版（要旨）です

2020 年第 3 四半期の業績

好調な事業の成長と持続的な資本構築

主な財務ハイライト：

- 2020 年第 3 四半期の業績：税引前利益は前年同期比 30% 減の 8 億 300 万スイス・フランとなりました。これは主に、昨年のインベストラボの譲渡に関する利益 3 億 2,700 万スイス・フランが含まれないことによるものです。
- 2020 年第 3 四半期の業績には、リストラクチャリング費用 1 億 700 万スイス・フラン、主な訴訟の引当金 1 億 5,200 万スイス・フラン、ドル安を主因とした為替レートの変動による税引前利益に対するネットでマイナスの影響 1 億 300 万スイス・フランが含まれています。
 - o インベストラボの譲渡による利益を除く 2020 年第 3 四半期の業績（為替レートの変動による影響を除いた場合*）：税引前利益は前年同期比 41% 増の 12 億スイス・フラン、純収益は同 11% 増の 55 億スイス・フランでした。
- 2020 年 1-9 月期の有形株主資本利益率（RoTE）は 9.8% となりました。
- 資本状態は良好を維持しており、2020 年第 3 四半期の CET1 比率は 2020 年第 2 四半期の 12.5% から上昇し 13.0%、ティア 1 レバレッジ比率は 2020 年第 2 四半期の 6.2%¹ から上昇し、2020 年第 3 四半期には 6.3%¹ となりました。
- 株主の皆様への還元に取り組みました。
 - o 取締役会は、2020 年 11 月 27 日に予定されている臨時株主総会（EGM）において、2019 年下半期の配当（1 株当たり 0.1388 スイス・フラン）の承認を求める予定です。
 - o 2020 年は、2019 年の配当に対して 5% の増配を継続します。
 - o 2021 年 1 月に自社株買いを再開する意向で、2021 年には最大で 15 億スイス・フラン、その翌年には少なくとも 10 億スイス・フランの自社株買いを実施する所存です²。

主な戦略ハイライト、持続的な成長の実現：

- ウェルス・マネジメント事業は勢いを維持しており、2020 年第 3 四半期の新規純資産は 111 億スイス・フランとなりました（過去最高となる IWM PB からの新規純資産を含みます）。2020 年第 3 四半期末現在の新規純資産合計は 180 億スイス・フラン、運用資産合計は 1.5 兆スイス・フランとなりました。
- 大幅な変動があった項目*を除いたアジア太平洋（APAC）部門の 2020 年 1-9 月期の調整後規制資本利益率（RoRC）は 20% でした。アジア太平洋地域は、2020 年第 3 四半期に全部門において前年同期比で最も高い地域収益³ の伸び（29%⁴、インベストラボの譲渡による利益の影響を除く*）を示しており、今や 2020 年第 3 四半期の当グループ全体の収益に占める割合は 20% となっています。

- スイスにおいては、ノイエ・アールガウアー・バンクの統合計画が順調に進展し、CSX が創設され、クレディ・スイスはリテール・バンキングにおいてデジタル・リーダーとしての地位を確立しました。
- 単体のグローバル投資銀行として、2020 年 1-9 月期の調整後*RoRC は 14% となり、債券の販売およびトレーディング、株式の販売およびトレーディング、ならびに資本市場にわたって堅調な収益の伸びを記録しました。
 - o 2020 年第 3 四半期におけるグローバル・トレーディング・ソリューションズ (GTS) 部門の収益は前年同期比 28% 増⁵ と底堅く、ウェルス・マネジメン顧客に機関投資家スタイルのソリューションを提供しています。
- 既にご報告しているとおおり、主要な戦略イニシアチブの遂行は成功を収めており、2022 年以降は 4 億~4 億 5,000 万スイス・フラン程度のグロスの節減が見込まれ、市場や経済の環境に応じて全額を再投資することも可能です。

クレディ・スイス・グループ AG の最高経営責任者 (CEO)、トーマス・ゴットシュタインは次のように述べています。

「新型コロナウイルスの世界的な感染拡大や、スイス・フラン高による為替レートの変動に起因する著しい逆風にもかかわらず、年初来 9 カ月間の業績は堅調が続き、純収益は前年同期比で 5% 増、税引前利益は同 1% 増の 36 億スイス・フランを計上しました。大幅な変動があった項目*を除いた調整後税引前利益は前年同期比 10% 増となりました。年初来 9 カ月間の株主帰属純利益は 30 億スイス・フランとなり、この結果 RoTE は 9.8% となりました。当行は分散の図られた事業の強みを改めて証明し、リストラクチャリングが完了に向かう中で、夏に発表した改善策によってさらに弾みがつくものと確信しています。CET1 比率は 13.0% と良好で、バランスシートのさらなる拡大を推進する態勢は整っています。当行は 2019 年第 2 回配当の支払いを提案しており、株主の皆様には 2020 年も 5% の増配を継続していくことのお知らせします。さらに、2021 年 1 月には自社株買いプログラムを再開する意向で、通年で最大 15 億スイス・フランを目標とし、少なくとも 10 億スイス・フラン² の自社株買いを行う予定です。年初来より不透明な状況が続き今後も課題は山積していますが、この場をお借りして、全ての従業員がお客様にクレディ・スイスの最高のサービスをお届けするため不断の努力を重ねていることに感謝します。」

主要指標

クレディ・スイス・グループ (単位：百万スイス・フラン)	3Q20	2Q20	3Q19	3Q19 からの 変動		9M20	9M19	9M19 からの 変動
純収益	5,198	6,194	5,326	(2)%		17,168	16,294	5%
貸倒引当金	94	296	72	-		958	178	-
営業費用合計	4,301	4,347	4,112	5%		12,655	12,610	0%
税引前利益	803	1,551	1,142	(30)%		3,555	3,506	1%
株主帰属純利益	546	1,162	881	(38)%		3,022	2,567	18%
有形株主資本利益率(%)	5.4	11.0	9.0	-		9.8	8.8	-
CET1比率(%)	13.0	12.5	12.4	-		13.0	12.4	-
CET1レバレッジ比率(%) ^o	4.5	4.5	4.1	-		4.5	4.1	-
ティア1レバレッジ比率(%) ^l	6.3	6.2	5.5	-		6.3	5.5	-

大幅な変動があった項目*を除いた主要指標

クレディ・スイス・グループ (単位：百万スイス・フラン)	3Q20	2Q20	3Q19	3Q19 からの 変動		9M20	9M19	9M19 からの 変動
純収益	5,198	6,060	4,999	4%		16,766	15,862	6%
営業費用合計	4,017	4,283	4,084	(2)%		12,294	12,496	(2)%
税引前利益	1,087	1,481	843	29%		3,514	3,188	10%

概要

新型コロナウイルスの世界的な感染拡大の影響が続いているにもかかわらず、クレディ・スイスの根幹となる業績は好調なものとなりました。

公表した2020年第3四半期の税引前利益は前年同期比30%減の8億300万スイス・フランとなり、株主帰属純利益は同38%減の5億4,600万スイス・フランでした。これは、2019年第3四半期の業績に、インベストラボ・ファンド・プラットフォームのオールファンズ・グループへの譲渡に関する利益3億2,700万スイス・フランが含まれていたことも一因です。純収益は前年同期比2%減の52億スイス・フランとなった一方、営業費用合計は同5%増の43億スイス・フランでした。これはリストラクチャリング費用1億700万スイス・フラン、および主な訴訟の引当金1億5,200万スイス・フランによるものです。2020年1-9月期の税引前利益は前年同期比1%増の36億スイス・フラン、株主帰属純利益は同18%増の30億スイス・フランとなりました。純収益は同5%増の172億スイス・フラン、営業費用合計は横ばいの127億スイス・フランでした。

調整後ベースでは、大幅な変動があった項目*を除いた 2020 年第 3 四半期の税引前利益は、前年同期比 29% 増の 11 億スイス・フランでした。営業レバレッジは引き続きプラスで、大幅な変動があった項目*を除いた調整後純収益は同 4% 増の 52 億スイス・フラン、調整後*営業費用合計は同 2% 減の 40 億スイス・フランでした。大幅な変動があった項目*を除いた 2020 年 1-9 月期の調整後税引前利益は同 10% 増の 35 億スイス・フランでした。これは主に、大幅な変動があった項目*を除いた調整後純収益が同 6% 増の 168 億スイス・フランとなったことと、調整後*営業費用合計が同 2% 減の 123 億スイス・フランとなったことによるものです。

2020 年 1-9 月期の有形株主資本利益率 (RoTE) は 9.8% でした。

ウェルス・マネジメント部門は、2020 年第 3 四半期も引き続き基本的な勢いを維持しました。公表した 2020 年第 3 四半期のウェルス・マネジメント部門の純収益合計は前年同期比 10% 減の 23 億スイス・フランとなりました。トランザクション・ベースの収益が同 18% 増と堅調で、経常手数料収益の減少 (同 9% 減) と純利息収益の減少 (同 8% 減) による相殺分を上回りました。2020 年 1-9 月期のウェルス・マネジメント部門の純収益合計は、前年同期比横ばいの 74 億スイス・フランとなりました。トランザクション・ベースの収益が同 11% 増と好調に推移した一方、経常手数料は同 6% 減、純利息収益は横ばいでした。為替レートの変動による影響を除いた場合、大幅な変動があった項目*を除いた 2020 年第 3 四半期のウェルス・マネジメント部門の調整後純収益合計は、前年同期比 5% 増の 24 億スイス・フランでした。トランザクション・ベースの収益は同 27% 増と極めて堅調で、経常手数料収益は同 3% 減と小幅の減少、また、純利息収益も 4% の減少となりました。為替レートの変動による影響を除いた場合*、大幅な変動があった項目を除いた 2020 年 1-9 月期のウェルス・マネジメント部門の調整後純収益合計は、前年同期比 6% 増の 76 億スイス・フランでした。トランザクション・ベースの収益は同 17% 増と堅調で、経常手数料収益は同横ばい、純利息収益は同 3% 増と小幅ながら増加しました。

グローバル・インベストメント・バンキング部門は、2020 年第 3 四半期も引き続き好調な業績を収めました。グローバル・インベストメント・バンキング部門の収益は、前年同期比 12% 増の 24 億米ドルとなりました。債券の販売およびトレーディングが同 10% 増、株式の販売およびトレーディングが同 5% 増、キャピタル・マーケッツ&アドバイザリー部門⁷が同 33% 増でした。2020 年 1-9 月期のグローバル・インベストメント・バンキング部門の収益は、あらゆる商品のパフォーマンスが好調だったことによって、前年同期比 20% 増の 78 億ドルでした。債券の販売およびトレーディングが同 35% 増、株式の販売およびトレーディングが同 14% 増、キャピタル・マーケッツ&アドバイザリー⁷が同 19% 増でした。ウェルス・マネジメント顧客に機関投資家向けのソリューションを提供する、4 部門を横断する社内合併事業の GTS は堅調に収益が増加しており、2020 年第 3 四半期の収益は前年同期比 28% 増となりました⁵。

2020 年第 3 四半期の貸倒引当金については、2020 年第 2 四半期の 2 億 9,600 万スイス・フランに対して 9,400 万スイス・フランを計上しました。2020 年 1-9 月期には 9 億 5,800 万スイス・フランの貸倒引当金を計上しましたが、2010 年 1-9 月期から 2019 年 1-9 月期までの 10 年の平均は 1 億 2,600 万スイス・フランでした。

2020年第3四半期の新規純資産は180億スイス・フランとあらゆる部門を通じて堅調で、スイス・ユニバーサル・バンク（SUB）部門が55億スイス・フラン、インターナショナル・ウェルス・マネジメント（IWM）部門が119億スイス・フラン、アジア太平洋（APAC）部門が22億スイス・フランでした。ウェルス・マネジメント部門は引き続き好調を維持しており、新規純資産は111億スイス・フランと年率6%の増加率を示しています。中でもIWM PB部門の新規純資産は過去最高を記録しました。2020年第3四半期末の運用資産は、2020年第2四半期末現在の1.4兆スイス・フランから1.5兆スイス・フランに増加しました。市場が好ましい方向に変動したことで新規純資産によって、為替レートが著しくネガティブな方向に変動した影響を相殺しました。2020年1-9月期の新規純資産合計は336億スイス・フランで、内訳はSUBが61億スイス・フラン、IWMが216億スイス・フラン、APACが97億スイス・フランでした。ウェルス・マネジメント部門の新規純資産は183億スイス・フランでした。

強靱で分散化されたビジネスモデルにより、引き続き資本の積み増しを図りました。2020年第3四半期末現在の資本状態は健全を維持しており、CET1比率は2020年第2四半期末の12.5%に対して13.0%となりました。2020年第3四半期末のティア1レバレッジ比率は、2020年第2四半期末の6.2%¹から6.3%¹に上昇しました。

見通し

第4四半期を通じ、また2021年を見据えて、クレディ・スイスは引き続きお客様に卓越した商品とサービスを確実にお届けすることに注力し、長引く新型コロナウイルスの感染拡大とそれに伴う経済的な困難を乗り越える支援を行ってまいります。このような環境の下においては、お客様はマクロ経済的な不確実性に対応することになるため、ウェルス・マネジメント部門とインベストメント・バンキング部門の両部門において、トランザクション・ベースおよびトレーディング・ベースの取引が高水準で推移することが予想されます。さらに、金利環境は引き続き金融に対する高水準の需要を下支えすると考えられ、ローンの増加によって低金利の圧力を相殺できると見込んでいます。感染拡大の行方は依然として不透明ですが、当行はバランスシート上に潤沢なCECLバッファを有しており、引き続き強靱なスイス経済に焦点を絞ることで、これを維持できると想定しています。13%のCET1自己資本比率を有していることから、株主の皆様には2019年下半期の配当金を支払い、2020年も配当を継続し、来年1月には自社株買いプログラムを再開することが適切であると考えています²。

本資料はクレディ・スイス・グループが発表したメディアリリースの翻訳版（要旨）です。メディアリリースの正確な内容は、クレディ・スイス・グループの[ウェブサイト](#)に掲載されたオリジナル版をご参照ください。

*これらは、調整後の業績、大幅な変動があった項目および為替レートの変動による影響を適宜除いたものを示しています。当グループの業績に含まれるこれらの調整後や利益を除外した業績は、非GAAPの財務指標です。最も直接的に比較可能な米国GAAP指標との調整については本メディアリリース（オリジナル版）の別表をご参照下さい。

1. 2020年第3四半期および2020年第2四半期のレバレッジ・エクスポージャーは、スイス金融市場監査機構（FINMA）の要請に従い、2020年第2四半期に支払った配当および2020年第4四半期に支払いを予定している配当調整後の、中央銀行預け金（それぞれ1,100億スイス・フランおよび1,040億スイス・フラン）を控除しています。中央銀行預け金を含めると、ティア1レバレッジ比率は2020年第3四半期末が5.6%、2020年第2四半期末が5.5%でした。
2. 市場環境や経済状況に応じて実施します。
3. APAC部門の純収益を反映し、インベストメント・バンク部門およびインターナショナル・ウェルス・マネジメント部門で認識されているアジア太平洋地域に関連する収益が含まれています。
4. 2019年第3四半期におけるインストラボの譲渡にかかる利益9,800万スイス・フランの利益を除きます。
5. 2020年第3四半期より前の期間については、ITSおよびAPACソリューションの純収益を反映しています。
6. 2020年第3四半期および2020年第2四半期のレバレッジ・エクスポージャーは、スイス金融市場監査機構（FINMA）の要請に従い、2020年第2四半期に支払った配当および2020年第4四半期に支払いを予定している配当調整後の、中央銀行預け金（それぞれ1,100億スイス・フランおよび1,040億スイス・フラン）を控除しています。中央銀行預け金を含めると、CET1レバレッジ比率は2020年第3四半期、2020年第2四半期ともに4.0%でした。
7. グローバル・インベストメント・バンキング部門における資本市場収益、アドバイザーおよびその他の手数料を含みます。